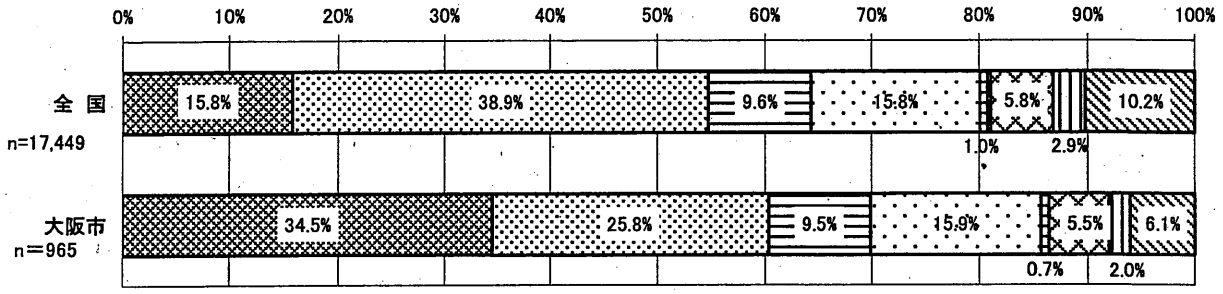
1　治療成績（平成23年新登録肺結核患者）

※結核発生動向システムより

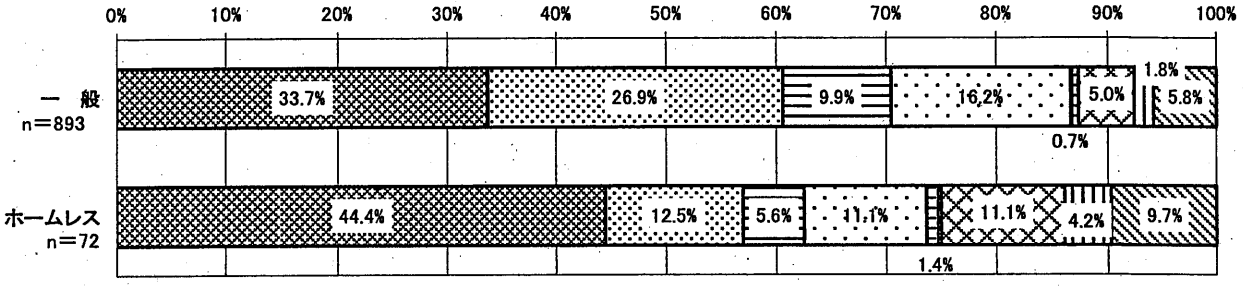
■治癒　■治療完了　■12か月を越える治療　■死亡　■治療失敗　■脱落中断　■転出　■判定不能

（1）大阪市と全国（総数）



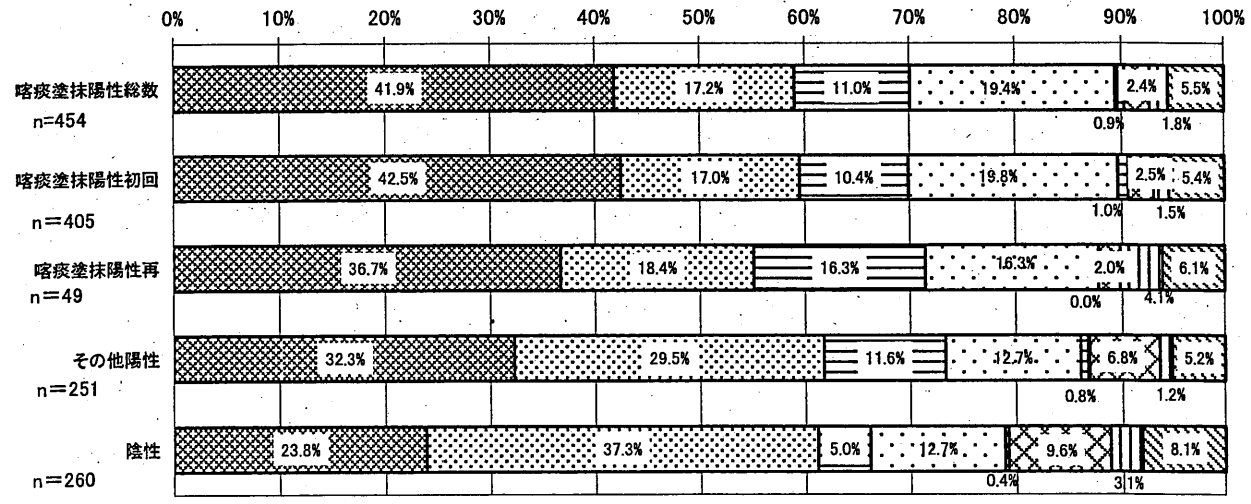
○ 治療成功割合（治癒と治療完了の和）は、大阪市60.3％であり、全国54.7％より高かった。
一方脱落中断割合は、大阪市5.5％であり、全国5.8％より低かった。

（2）一般・ホームレス（総数）

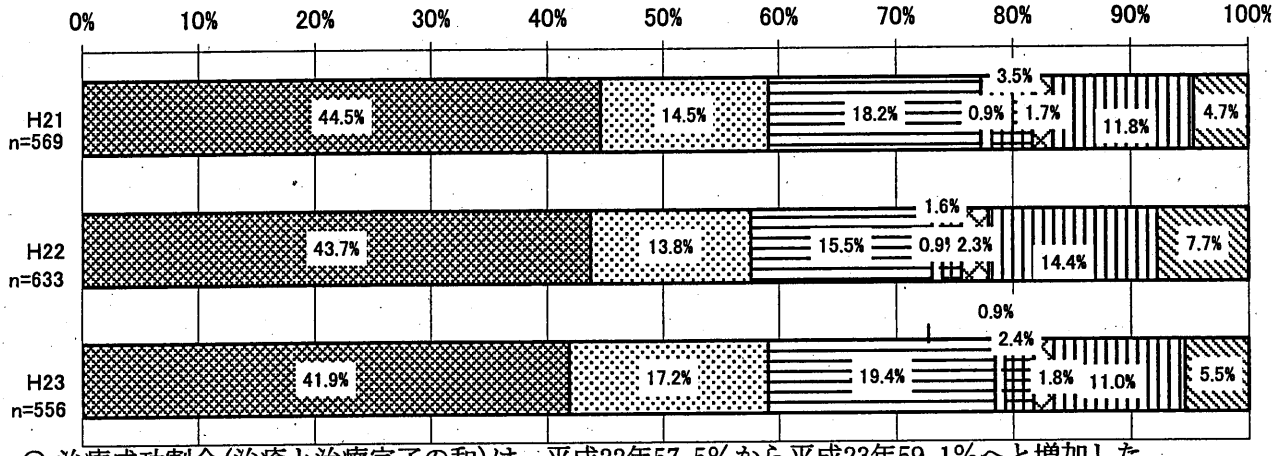


○ 治療成功割合（治癒と治療完了の和）は、一般60.6％、ホームレス56.9％であり、一般の方が高かった。脱落中断割合は、一般5.0％、ホームレス11.1％であり、ホームレスの方が高かった。

（3）総合患者分類別



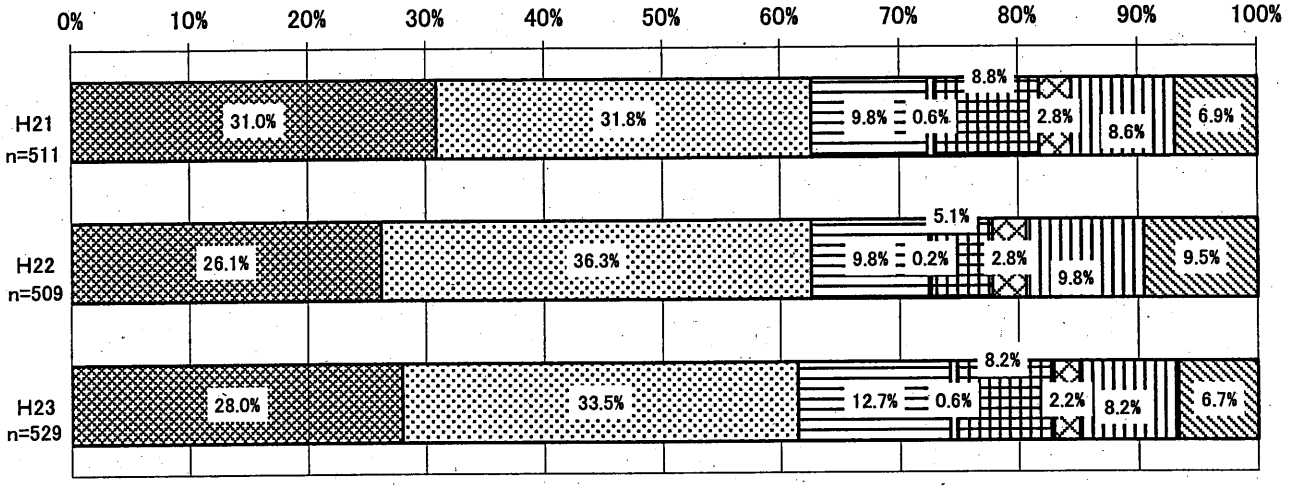
○ 脱落中断割合は、喀痰塗抹陽性では2.4％と極めて少なかった。一方陰性は最も高く9.6％であった。次いでその他陽性が高く、6.8％であった。



（4）喀痰塗抹陽性肺結核患者の治療成績の推移

○ 治療成功割合（治癒と治療完了の和）は、平成22年57.5%から平成23年59.1%へと増加した。
死亡割合は平成22年15.5%から平成23年19.4%へと増加した。
脱落中断割合は平成22年1.6%から平成23年2.4%へと増加した。

（5）喀痰塗抹陰性肺結核患者の治療成績の推移



○ 治療成功割合（治癒と治療完了の和）は、平成22年62.4%から平成23年61.5%へと減少した。
脱落中断割合は平成22年5.1%から平成23年8.2%へと増加した。

2 コホート検討会

コホート検討会は、結核治療におけるコホート分析から中断・治療失敗の原因や患者支援のあり方を検討し、結核治療の向上を図ることを目的に実施している。平成23年度より対象者を全肺結核患者に拡大した。また検討内容を医療機関に還元・地域連携の強化を図ることを目的に、地域医師会医師の参画が開始となった。

平成23年度は、各区保健福祉センター（西成区を除く）は各3回、保健所・西成区保健福祉センターは各6回、計81回実施した。

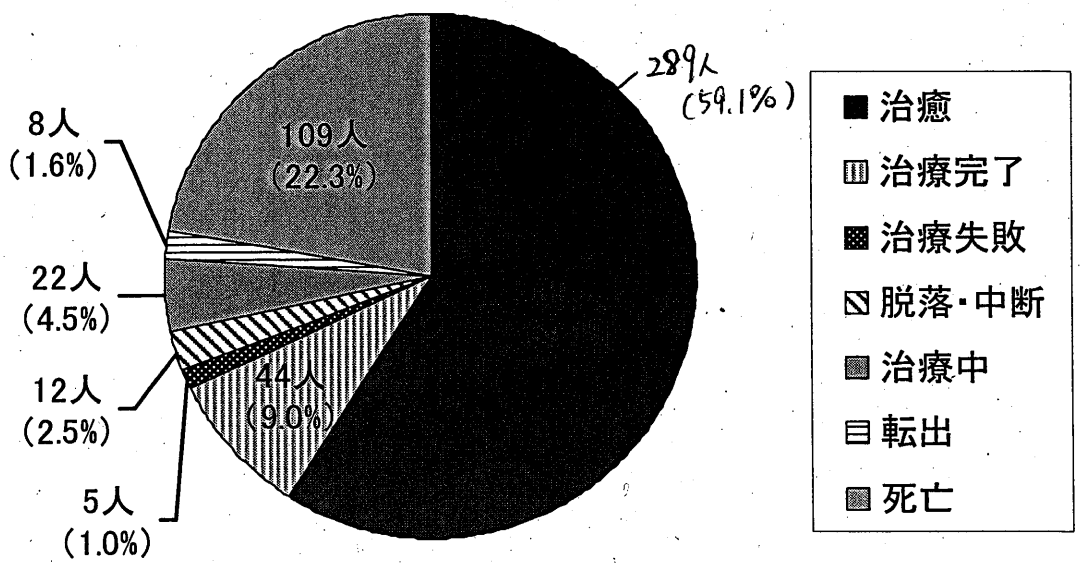
平成23年新登録肺結核患者の検討結果　　（平成24年12月末現在）

平成23年度より、喀痰塗抹陽性及び喀痰塗抹陰性の肺結核患者について検討した。

（1）治療成績

○平成23年新登録喀痰塗抹陽性肺結核患者治療成績

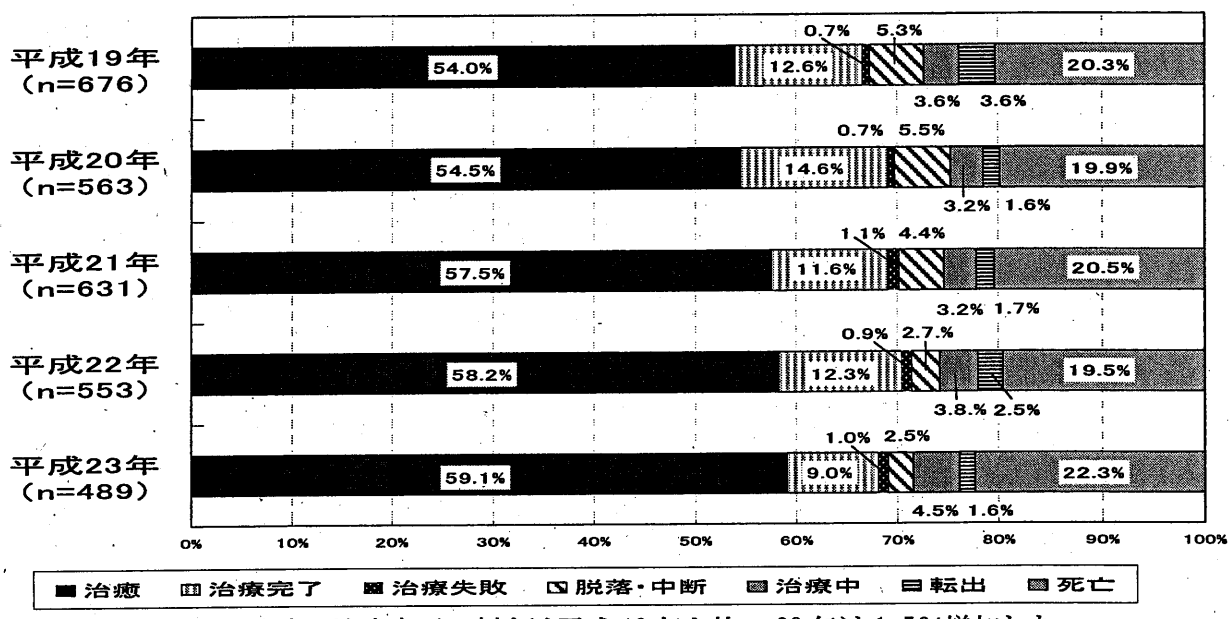
新登録喀痰塗抹陽性肺結核患者の中から、喀痰塗抹陽性培養陰性肺結核再治療患者5名、転症削除3名を除く489名について検討した。



コホート分析による治療成功は333人（治癒289人、治療完了44人）（68.1%）、治療失敗、脱落中断は17人（3.5%）、死亡は109人（結核死亡39人、結核外死亡70人）（22.3%）であった。

転出・死亡（転出8人・死亡109人）を除くと、治療成功率は89.5%、治療失敗・脱落中断率は4.6%、治療中は5.9%であった。

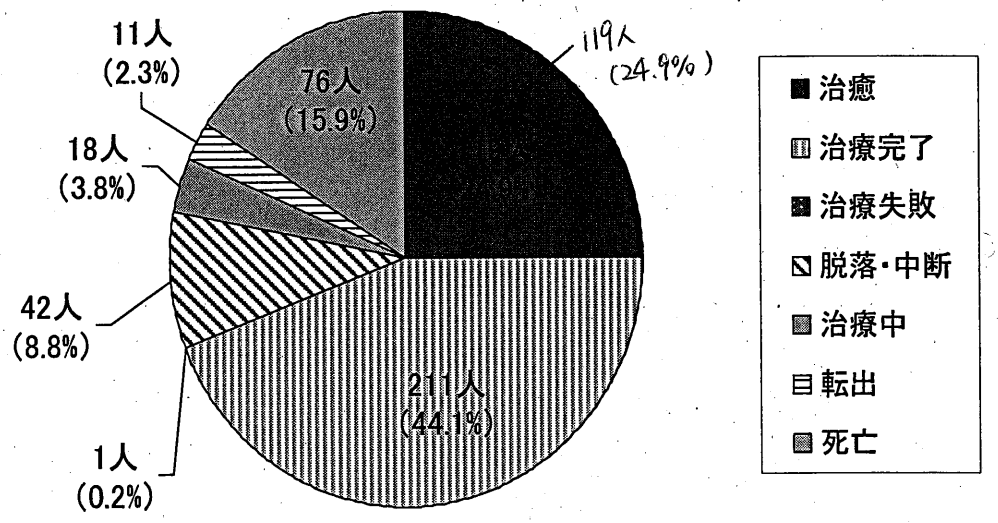
○喀痰塗抹陽性肺結核患者の治療成績の推移



コホート分析による治癒・治療完了の割合は平成19年と比べ23年は1.5%増加した。
脱落中断割合は平成19年と比べ平成23年は2.8%減少した。
死亡の割合は平成19年と比べ、23年は2.8%増加している。

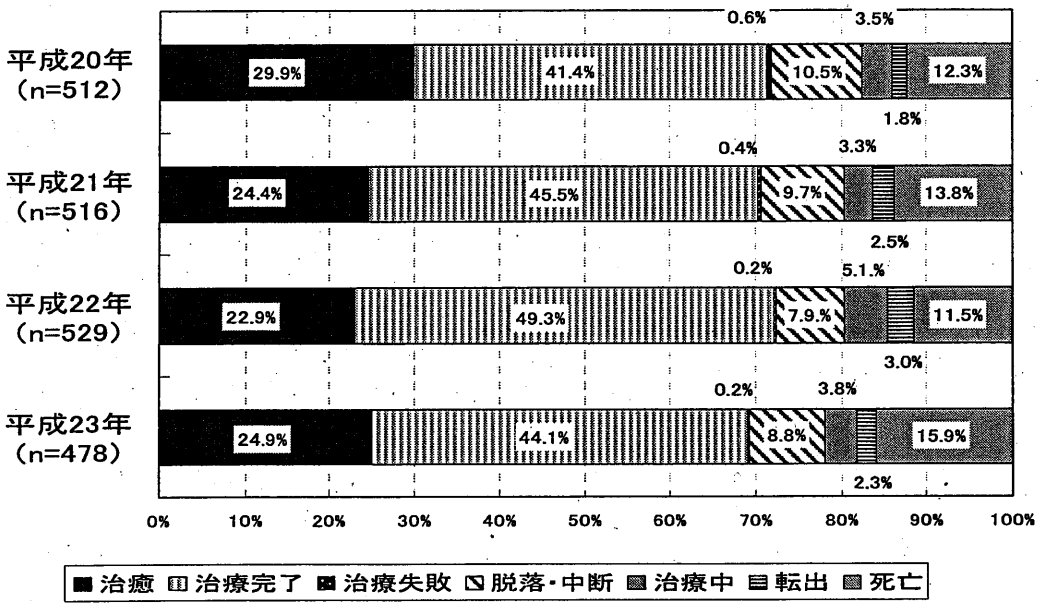
○喀痰塗抹陰性肺結核患者

平成23年新登録喀痰塗抹陰性肺結核患者の中から、転症削除7名を除く478名について検討した。



コホート分析による治療成功は330人（治癒119人・治療完了211人）(69.0%)、治療失敗・脱落中断43人（9.0%)、死亡は76人（結核死亡23人　結核外死亡53人）(15.9%)であった。
転出・死亡を(転出11人・死亡76人)を除くと、治療成功率は84.4%、治療失敗・脱落中断率は11.0%、治療中は4.6%であった。

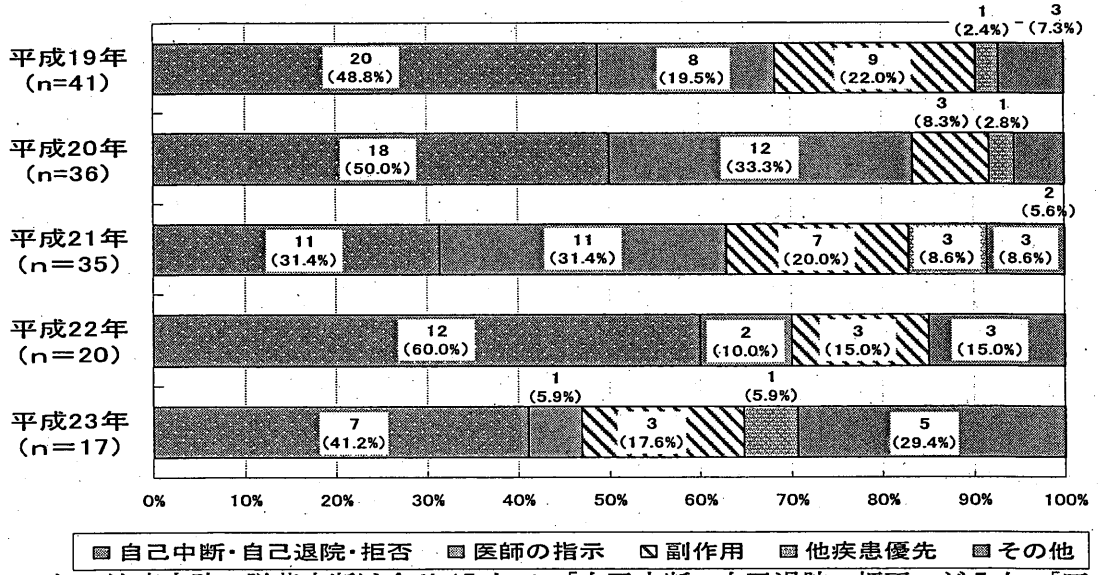
○喀痰塗抹陰性肺結核患者の治療成績の推移



コホート分析による治癒・治療完了の割合は、平成 20 年と比べ 23 年は 2.3%減少した。
脱落中断割合は平成 19 年と比べ、平成 23 年は 1.7%減少した。
死亡の割合は平成 19 年と比べ、23 年は 3.6%と増加している。

（2）治療失敗・脱落中断の理由

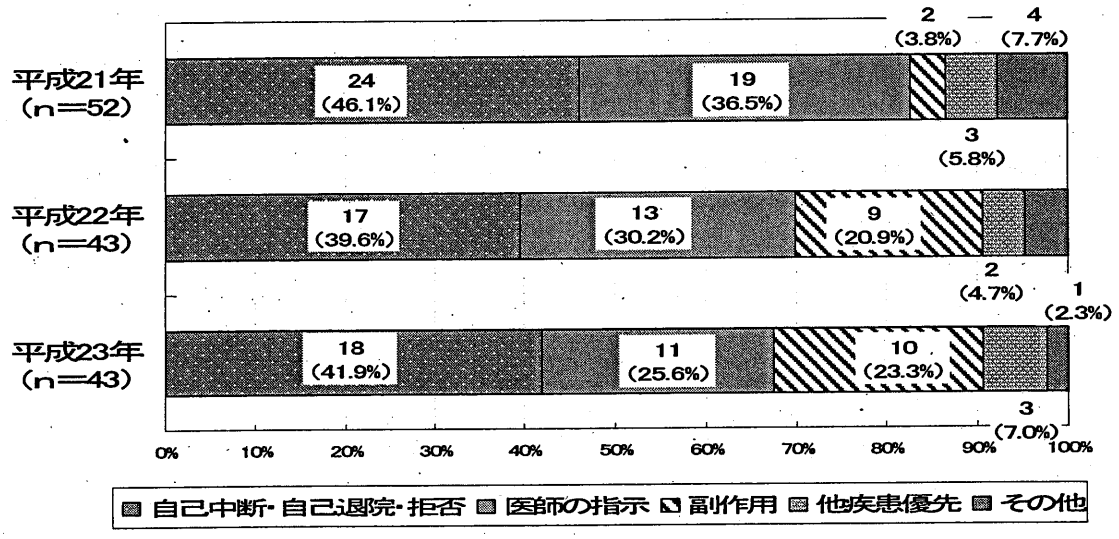
○喀痰塗抹陽性肺結核患者



平成 23 年の治療失敗・脱落中断は合計 17 人で、「自己中断・自己退院・拒否」が 7 人、「医師の指示によるもの」が 1 人、「副作用によるもの」3 人、「他疾患優先」が 1 人、「その他」が 5 人であった。
平成 22 年と比較すると、「自己中断・自己退院・拒否」については 12 人（60%）から 7 人（41.2%）と 18.8%減少、「医師の指示によるもの」も平成 22 年の 2 人(10%)から 1 人(5.9%)

と4.1%減少していました。「その他」が3人（15%）から5人（29.4%）と14.4%増加していた。

○喀痰塗抹陰性肺結核患者



平成23年の治療失敗・脱落中断は合計43人で、「自己中断・自己退院・拒否」が18名、「医師の指示によるもの」が11人、「副作用によるもの」が10人、「他疾患優先」が3人、「その他」が1人であった。

「医師の指示によるもの」は年々減少しており、平成22年から23年にかけては、13人（30.2%）から11人（25.6%）と4.6%減少していました。